



# ログイン アカウソトの作成

## ONTAP 9

NetApp  
February 12, 2026

# 目次

|   |    |
|---|----|
| ログイン アカウントの作成 .....                         | 1  |
| ONTAPログイン アカウントの作成について学ぶ .....              | 1  |
| クラスタ管理者とSVM管理者 .....                        | 1  |
| マージされたロール .....                             | 2  |
| ローカル アカウント アクセスの有効化 .....                   | 2  |
| ローカルONTAPアカウント アクセスを有効にする方法について学習します .....  | 2  |
| ONTAPアカウントのパスワードアクセスを有効にする .....            | 2  |
| ONTAPアカウントのSSH公開鍵アクセスを有効にする .....           | 3  |
| 多要素認証 (MFA) アカウントの有効化 .....                 | 5  |
| SSL証明書のONTAPアカウントアクセスを有効にする .....           | 13 |
| Active Directory ONTAPアカウントアクセスを有効にする ..... | 14 |
| LDAPまたはNIS ONTAPアカウントアクセスを有効にする .....       | 16 |



- 「operator」
- 「root」
- 「shutdown」
- 「sshd」
- 「sync」
- "sys"
- 「uucp」
- 「www」

## マージされたロール

同じユーザーに対して複数のリモートアカウントを有効にすると、そのユーザーには、アカウントに指定されているすべてのロールの和集合が割り当てられます。つまり、LDAPまたはNISアカウントに `vsadmin` ロールが割り当てられ、同じユーザーのADグループアカウントに `vsadmin-volume` ロールが割り当てられている場合、ADユーザーはより包括的な `vsadmin` 権限でログインします。これらのロールは\_マージされている\_と呼ばれます。

## ローカル アカウント アクセスの有効化

ローカル**ONTAP**アカウント アクセスを有効にする方法について学習します

ローカル アカウントとは、アカウント情報、公開鍵、またはセキュリティ証明書がストレージシステム上に存在するアカウントです。`security login create` コマンドを使用すると、ローカル アカウントが管理SVMまたはデータSVMにアクセスできるようになります。

### 関連情報

- ["security login create"](#)

## ONTAPアカウントのパスワードアクセスを有効にする

```
`security login  
create` コマンドを使用すると、管理者アカウントがパスワードを使用して管理SVMまたはデータSVMにアクセスできるようになります。コマンドを入力すると、パスワードの入力を求められます。
```

### タスク概要

ログイン アカウントに割り当てるアクセス制御ロールが不明な場合は、`security login modify` コマンドを使用して後でロールを追加できます。

```
`security login modify`の詳細については、link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-modify.html ["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。
```

## 開始する前に

このタスクを実行するには、クラスタ管理者である必要があります。

## 手順

1. ローカル管理者アカウントがパスワードを使用してSVMにアクセスできるようにします：

```
security login create -vserver SVM_name -user-or-group-name user_or_group_name  
-application application -authmethod authentication_method -role role -comment  
comment
```

次のコマンドは、事前定義された `backup` ロールを持つクラスタ管理者アカウント `admin1` が、パスワードを使用して管理SVMengClusterにアクセスできるようにします。コマンドを入力すると、パスワードの入力を求められます。

```
cluster1::>security login create -vserver engCluster -user-or-group-name  
admin1 -application ssh -authmethod password -role backup
```

`security login create`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-create.html> ["ONTAPコマンド リファレンス"]をご覧ください。

## ONTAPアカウントのSSH公開鍵アクセスを有効にする

`security login create`コマンドを使用すると、管理者アカウントがSSH公開キーを使用して管理SVMまたはデータSVMにアクセスできるようになります。

## タスク概要

- アカウントがSVMにアクセスするためには、アカウントに公開鍵を関連付けておく必要があります。

### ユーザ アカウントへの公開鍵の関連付け

このタスクは、アカウント アクセスを有効にする前後どちらでも実行できます。

- ログイン アカウントに割り当てるアクセス制御ロールが不明な場合は、`security login modify` コマンドを使用して後でロールを追加できます。

`security login modify`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-modify.html> ["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

クラスタでFIPSモードを有効にする場合は、サポートされているキー アルゴリズムが使用されていない既存のSSH公開鍵アカウントを、サポートされているキー タイプで再設定する必要があります。アカウントの再設定は、FIPを有効にする前に行う必要があります。そうしないと、管理者認証は失敗します。

次の表に、ONTAP SSH接続でサポートされるホスト キー タイプ アルゴリズムを示します。これらのキー タイプは、SSH公開認証の設定には適用されません。

| ONTAPリリース | FIPSモードでサポートされるキータイプ              | 非FIPSモードでサポートされるキーの種類   |
|-----------|-----------------------------------|---|
| 9.11.1以降  | ecdsa-sha2-nistp256               | ecdsa-sha2-nistp256 + rsa-sha2-512 + rsa-sha2-256 + ssh-ed25519 + ssh-dss + ssh-rsa |
| 9.10.1以前  | ecdsa-sha2-nistp256 + ssh-ed25519 | ecdsa-sha2-nistp256 + ssh-ed25519 + ssh-dss + ssh-rsa                               |



ONTAP 9.11.1以降では、ssh-ed25519ホスト キー アルゴリズムのサポートが廃止されました。

詳細については、"[FIPSを使用してネットワークセキュリティを設定する](#)"を参照してください。

開始する前に

このタスクを実行するには、クラスタ管理者である必要があります。

手順

- ローカル管理者アカウントがSSH公開鍵を使用してSVMにアクセスできるようにします。

```
security login create -vserver SVM_name -user-or-group-name user_or_group_name
-application application -authmethod authentication_method -role role -comment
comment
```

次のコマンドは、事前定義された `vsadmin-volume` ロールを持つSVM管理者アカウント `svmadmin1` が、SSH公開キーを使用してSVMengData1にアクセスできるようにします：

```
cluster1::>security login create -vserver engData1 -user-or-group-name
svmadmin1 -application ssh -authmethod publickey -role vsadmin-volume
```

`security login create`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-create.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-create.html) ["ONTAPコマンド リファレンス"]をご覧ください。

終了後の操作

管理者アカウントに公開鍵が関連付けられていない場合、アカウントがSVMにアクセスする前に関連付けておく必要があります。

[ユーザ アカウントへの公開鍵の関連付け](#)

## 多要素認証（MFA）アカウントの有効化

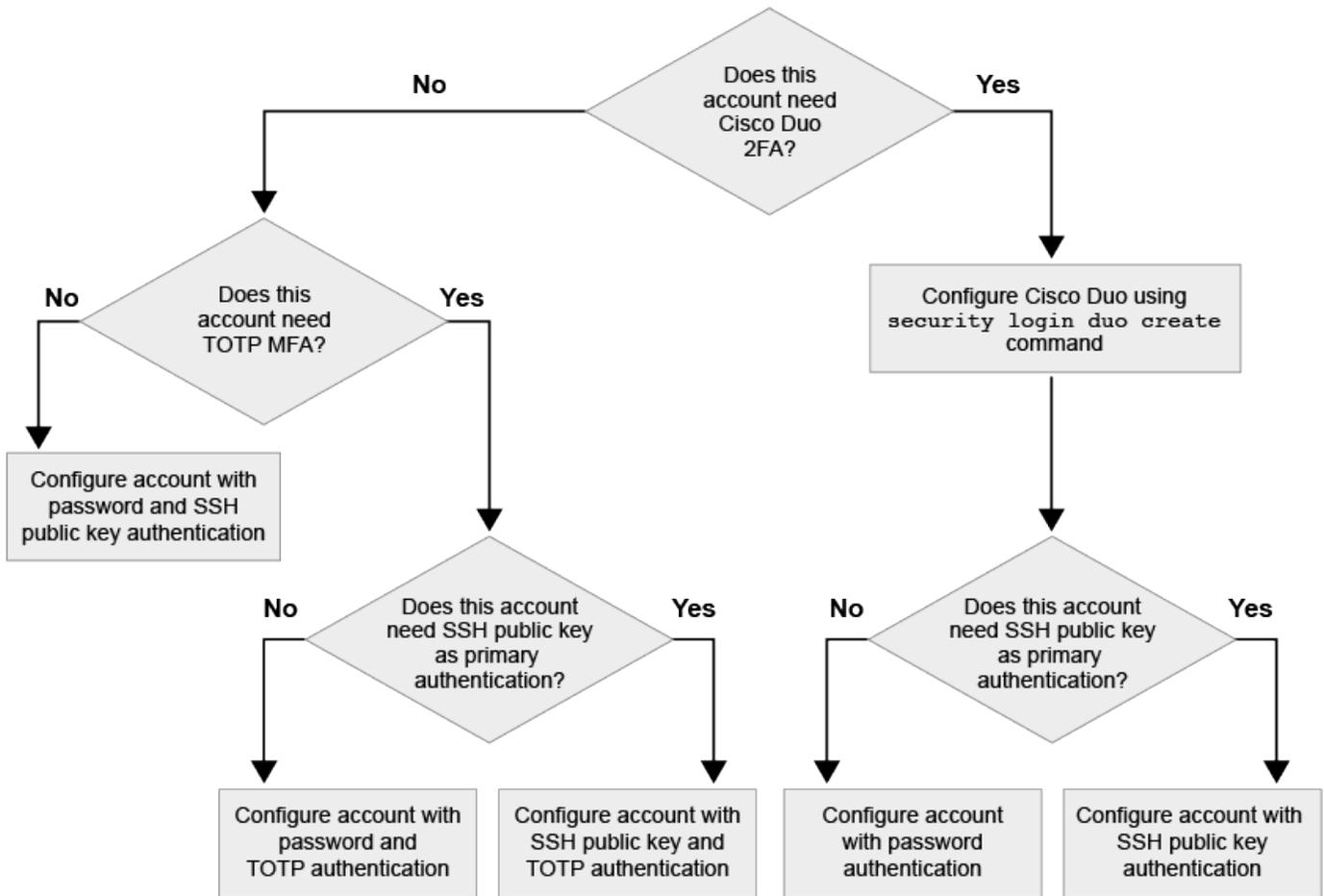
### ONTAP多要素認証について学ぶ

多要素認証（MFA）では、管理VMやデータStorage VMにログインする際にユーザに2つの認証方式を要求することで、セキュリティを強化できます。

ONTAPのバージョンに応じて、SSH公開鍵、ユーザ パスワード、Time-based One-Time Password（TOTP）を組み合わせることで多要素認証を行えます。Cisco Duoを有効にして設定すると（ONTAP 9.14.1以降）、すべてのユーザの既存の方式を補完する追加の認証方式として機能します。

| 追加されたリリース    | 第1の認証方式   | 第2の認証方式   |
|--------------|-----------|-----------|
| ONTAP 9.14.1 | SSH公開鍵    | TOTP      |
|              | ユーザ パスワード | TOTP      |
|              | SSH公開鍵    | Cisco Duo |
|              | ユーザ パスワード | Cisco Duo |
| ONTAP 9.13.1 | SSH公開鍵    | TOTP      |
|              | ユーザ パスワード | TOTP      |
| ONTAP 9.3    | SSH公開鍵    | ユーザ パスワード |

MFAが設定されている場合は、最初にクラスタ管理者がローカル ユーザ アカウントを有効にしてから、ローカル ユーザがアカウントを設定する必要があります。



## SSHとTOTPを使用してONTAP多要素認証を有効にする

多要素認証（MFA）では、管理SVMやデータSVMにログインする際にユーザに2つの認証方式を要求することで、セキュリティを強化できます。

### タスク概要

- このタスクを実行するには、クラスタ管理者である必要があります。
- ログイン アカウントに割り当てるアクセス制御ロールが不明な場合は、`security login modify` コマンドを使用して後でロールを追加できます。

``security login modify``の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-modify.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-modify.html) ["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

### "管理者に割り当てられているロールの変更"

- 認証に公開鍵を使用している場合、アカウントがSVMにアクセスするためには、アカウントに公開鍵を関連付けておく必要があります。

### "ユーザ アカウントへの公開鍵の関連付け"

このタスクは、アカウント アクセスを有効にする前後どちらでも実行できます。

- ONTAP 9.12.1以降では、FIDO2 (Fast Identity Online) またはPIV (Personal Identity Verification) 認証標準を使用して、SSHクライアントMFAにYubikeyハードウェア認証デバイスを使用できます。

#### SSH公開鍵とユーザ パスワードを使用するMFAの有効化

ONTAP 9.3以降、クラスタ管理者は、SSH公開鍵とユーザ パスワードを使用してMFAでログインするようにローカル ユーザ アカウントを設定できます。

1. ローカル ユーザ アカウントに対して、SSH公開鍵とユーザパスワードを使用するMFAを有効化します。

```
security login create -vserver <svm_name> -user-or-group-name  
<user_name> -application ssh -authentication-method <password|publickey>  
-role admin -second-authentication-method <password|publickey>
```

次のコマンドでは、事前定義された `admin` ロールを持つ SVM 管理者アカウント `admin2` が SSH 公開キーとユーザーパスワードの両方を使用して SVMengData1にログインする必要があります：

```
cluster-1::> security login create -vserver engData1 -user-or-group-name  
admin2 -application ssh -authentication-method publickey -role admin  
-second-authentication-method password
```

Please enter a password for user 'admin2':

Please enter it again:

Warning: To use public-key authentication, you must create a public key  
for user "admin2".

`security login create`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-create.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-create.html) ["ONTAPコマンド リファレンス"] をご覧ください。

#### TOTPを使用するMFAの有効化

ONTAP 9.13.1以降では、ローカルユーザにSSH公開鍵またはユーザパスワードと時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) の両方を使用して管理SVMまたはデータSVMにログインすることを要求することで、セキュリティを強化できます。アカウントでTOTPを使用したMFAが有効になった後、ローカルユーザは"設定を完了する"にログインする必要があります。

TOTPは、現在の時刻を使用してワンタイム パスワードを生成するコンピュータ アルゴリズムです。TOTPは、必ずSSH公開鍵またはユーザ パスワードに続く第2の認証方式として使用します。

開始する前に

これらのタスクを実行するには、ストレージ管理者である必要があります。

手順

第1の認証方式にユーザ パスワードまたはSSH公開鍵を使用し、第2の認証方式にTOTPを使用するよう

にMFAを設定できます。

## ユーザ パスワードとTOTPを使用するMFAの有効化

1. ユーザ アカウントに対して、ユーザ パスワードとTOTPを使用する多要素認証を有効化します。

### 新規ユーザーアカウントの場合

```
security login create -vserver <svm_name> -user-or-group-name  
<user_or_group_name> -application ssh -authentication-method  
password -second-authentication-method totp -role <role> -comment  
<comment>
```

### 既存のユーザーアカウントの場合

```
security login modify -vserver <svm_name> -user-or-group-name  
<user_or_group_name> -application ssh -authentication-method  
password -second-authentication-method totp -role <role> -comment  
<comment>
```

2. TOTPを使用するMFAが有効になっていることを確認します。

```
security login show
```

## SSH公開鍵とTOTPを使用するMFAの有効化

1. SSH公開鍵とTOTPを使用する多要素認証を有効化します。

### 新規ユーザーアカウントの場合

```
security login create -vserver <svm_name> -user-or-group-name  
<user_or_group_name> -application ssh -authentication-method  
publickey -second-authentication-method totp -role <role> -comment  
<comment>
```

### 既存のユーザーアカウントの場合

```
security login modify -vserver <svm_name> -user-or-group-name  
<user_or_group_name> -application ssh -authentication-method  
publickey -second-authentication-method totp -role <role> -comment  
<comment>
```

```
`security login modify`
```

の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-modify.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-modify.html) ["ONTAP コマンド リファレンス"]を参照してください。

## 2. TOTPを使用するMFAが有効になっていることを確認します。

```
security login show
```

`security login show`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-show.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-show.html) ["ONTAP コマンド リファレンス"]を参照してください。

### 終了後の操作

- 管理者アカウントに公開鍵が関連付けられていない場合、アカウントがSVMにアクセスする前に関連付けておく必要があります。

"[ユーザ アカウントへの公開鍵の関連付け](#)"

- ローカル ユーザがログインし、TOTPを使用するMFAの設定を完了する必要があります。

"[ローカル ユーザ アカウントでのTOTPを使用するMFAの設定](#)"

### 関連情報

- "[ONTAP 9 における多要素認証 \(TR-4647\)](#)"
- "[ONTAP コマンド リファレンス](#)"

### TOTPを使用したMFA用のローカルONTAPユーザーアカウントを構成する

ONTAP 9.13.1以降では、時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) を使用した多要素認証 (MFA) でユーザーアカウントを設定できます。

### 開始する前に

- ストレージ管理者は、ユーザーアカウントの2番目の認証方法として"[TOTPでMFAを有効にする](#)"を設定する必要があります。
- ユーザ アカウントの第1の認証方式が、ユーザ パスワードまたはSSH公開鍵である必要があります。
- スマートフォンにTOTPアプリを設定し、TOTPシークレット キーを作成しておく必要があります。

Microsoft Authenticator、Google Authenticator / Google認証システム、AuthyなどのTOTP互換認証コードがサポートされています。

### 手順

1. 現在の認証方法でユーザ アカウントにログインします。

現在の認証方法は、ユーザ パスワードまたはSSH公開鍵である必要があります。

2. アカウントにTOTP設定を作成します。

```
security login totp create -vserver "<svm_name>" -username
"<account_username >"
```

3. アカウントでTOTP設定が有効になっていることを確認します。

```
security login totp show -vserver "<svm_name>" -username
"<account_username>"
```

#### 関連情報

- ["セキュリティログイン TOTP 作成"](#)
- ["security login totp show"](#)

#### ONTAPユーザーアカウントのTOTP秘密キーをリセットします

アカウントのセキュリティを確保するために、TOTPシークレット キーが侵害されたり、キーを紛失した場合、既存のキーを無効にして新しいシークレット キーを作成する必要があります。

#### キー侵害時のTOTPのリセット

TOTPシークレット キーが侵害されたが引き続きアクセスできる場合は、侵害されたキーを削除して新しいキーを作成できます。

1. ユーザ パスワードまたはSSH公開鍵と、侵害されたTOTPシークレット キーを使用して、ユーザ アカウントにログインします。
2. 侵害されたTOTPシークレット キーを削除します。

```
security login totp delete -vserver <svm_name> -username
<account_username>
```

3. 新しいTOTPシークレット キーを作成します。

```
security login totp create -vserver <svm_name> -username
<account_username>
```

4. アカウントでTOTP設定が有効になっていることを確認します。

```
security login totp show -vserver <svm_name> -username
<account_username>
```

#### キー紛失時のTOTPのリセット

TOTP 秘密キーを紛失した場合は、ストレージ管理者に連絡して"キーが無効になっている"してください。キーが無効になったら、最初の認証方法を使用してログインし、新しい TOTP を設定できます。

#### 開始する前に

ストレージ管理者が、TOTPシークレット キーを無効にする必要があります。ストレージ管理者でない場合は、ストレージ管理者にキーの無効化を依頼してください。

#### 手順

1. ストレージ管理者がTOTPシークレットを無効にしたら、第1の認証方式を使用してローカル アカウントにログインします。
2. 新しいTOTPシークレット キーを作成します。

```
security login totp create -vserver <svm_name> -username
<account_username >
```

3. アカウントでTOTP設定が有効になっていることを確認します。

```
security login totp show -vserver <svm_name> -username
<account_username>
```

#### 関連情報

- ["セキュリティログイン TOTP 作成"](#)
- ["セキュリティログイン TOTP 削除"](#)
- ["security login totp show"](#)

#### ONTAPユーザーアカウントのTOTPシークレットキーを無効にする

ローカル ユーザのTime-based One-Time Password (TOTP) シークレット キーが失われた場合は、失われたキーをストレージ管理者が無効にしてから、ユーザが新しいTOTPシークレット キーを作成する必要があります。

#### タスク概要

このタスクは、クラスタ管理者アカウントからのみ実行できます。

#### 手順

1. TOTPシークレット キーを無効にします。

```
security login totp modify -vserver <svm_name> -username  
<account_username> -enabled false
```

```
`security login totp modify`  
の詳細については、link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-  
login-totp-modify.html["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。
```

## SSL証明書のONTAPアカウントアクセスを有効にする

`security login create`コマンドを使用すると、管理者アカウントがSSL証明書を使用して管理SVMまたはデータSVMにアクセスできるようになります。

### タスク概要

- アカウントがSVMにアクセスするためには、CA署名済みサーバ デジタル証明書をインストールしておく必要があります。

#### CA署名済みサーバ証明書の生成とインストール

このタスクは、アカウント アクセスを有効にする前後どちらでも実行できます。

- ログイン アカウントに割り当てるアクセス制御ロールが不明な場合は、後で `security login modify` コマンドを使用してロールを追加できます。

#### 管理者に割り当てられているロールの変更



クラスタ管理者アカウントの場合、証明書認証は http、ontapi、および `rest` アプリケーションでサポートされます。SVM管理者アカウントの場合、証明書認証は `ontapi` および `rest` アプリケーションでのみサポートされます。

### 手順

1. ローカル管理者アカウントがSSL証明書を使用してSVMにアクセスできるようにします。

```
security login create -vserver SVM_name -user-or-group-name user_or_group_name  
-application application -authmethod authentication_method -role role -comment  
comment
```

次のコマンドは、デフォルトの `vsadmin` ロールを持つSVM管理者アカウント `svmadmin2` が、SSLデジタル証明書を使用してSVMengData2にアクセスできるようにします。

```
cluster1::>security login create -vserver engData2 -user-or-group-name  
svmadmin2 -application ontapi -authmethod cert
```

``security login create``の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-create.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-create.html) ["ONTAPコマンド リファレンス"] をご覧ください。

#### 終了後の操作

CA署名済みサーバ デジタル証明書がインストールされていない場合は、アカウントがSVMにアクセスする前にインストールしておく必要があります。

#### CA署名済みサーバ証明書の生成とインストール

この手順で説明されているコマンドの詳細については、"[ONTAPコマンド リファレンス](#)"を参照してください。

## Active Directory ONTAPアカウントアクセスを有効にする

``security login create``コマンドを使用すると、Active Directory (AD) のユーザーまたはグループアカウントが管理SVMまたはデータSVMにアクセスできるようになります。ADグループ内のすべてのユーザーは、グループに割り当てられたロールを使用してSVMにアクセスできます。

#### タスク概要

- アカウントがSVMにアクセスするためには、ADドメイン コントローラからクラスタまたはSVMへのアクセスを設定しておく必要があります。

#### Active Directoryドメイン コントローラ アクセスの設定

このタスクは、アカウント アクセスを有効にする前後どちらでも実行できます。

- ONTAP 9.13.1以降では、ADユーザ パスワードと組み合わせる第1または第2の認証方式として、SSH公開鍵を使用できます。

SSH公開鍵を第1の認証方式として使用することを選択した場合、AD認証は行われません。

- ONTAP 9.11.1以降では、AD LDAPサーバでサポートされている場合は"[ONTAP NFS SVMのnsswitch認証にLDAP高速バインドを使用する](#)"を使用できます。
- ログイン アカウントに割り当てるアクセス制御ロールが不明な場合は、`security login modify` コマンドを使用して後でロールを追加できます。

``security login modify``の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-modify.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-modify.html) ["ONTAPコマンド リファレンス"] を参照してください。

#### 管理者に割り当てられているロールの変更



ADグループアカウントアクセスは、SSH、ontapi、および`rest`アプリケーションでのみサポートされます。ADグループは、多要素認証で一般的に使用されるSSH公開キー認証ではサポートされません。

#### 開始する前に

- クラスタ時間とActive Directoryドメイン コントローラの時刻を、誤差が5分以内となるように同期する必要があります。
- このタスクを実行するには、クラスタ管理者である必要があります。

#### 手順

1. ADのユーザまたはグループ管理者アカウントがSVMにアクセスできるようにします。

#### ADユーザーの場合：

| ONTAPバージョン | 第1の認証方式 | 第2の認証方式 | コマンド   |
|------------|---------|---------|--|
| 9.13.1以降   | 公開鍵     | なし      | <pre>security login create -vserver &lt;svm_name&gt; -user-or-group-name &lt;user_name&gt; -application ssh -authentication-method publickey -role &lt;role&gt;</pre>  |
| 9.13.1以降   | ドメイン    | 公開鍵     | <p>新規ユーザー向け</p> <pre>security login create -vserver &lt;svm_name&gt; -user-or-group-name &lt;user_name&gt; -application ssh -authentication-method domain -second -authentication-method publickey -role &lt;role&gt;</pre> <p>既存ユーザーの場合</p> <pre>security login modify -vserver &lt;svm_name&gt; -user-or-group-name &lt;user_name&gt; -application ssh -authentication-method domain -second -authentication-method publickey -role &lt;role&gt;</pre> |

| ONTAPバージョン | 第1の認証方式 | 第2の認証方式 | コマンド  |
|------------|---------|---------|---|
| 9.0以降      | ドメイン    | なし      | <pre>security login create -vserver &lt;svm_name&gt; -user-or-group-name &lt;user_name&gt; -application &lt;application&gt; -authentication-method domain -role &lt;role&gt; -comment &lt;comment&gt; [-is-ldap- fastbind true]</pre> |

ADグループの場合：

| ONTAPのバージョン | 第1の認証方式 | 第2の認証方式 | コマンド  |
|-------------|---------|---------|---|
| 9.0以降       | ドメイン    | なし      | <pre>security login create -vserver &lt;svm_name&gt; -user-or-group-name &lt;user_name&gt; -application &lt;application&gt; -authentication-method domain -role &lt;role&gt; -comment &lt;comment&gt; [-is-ldap- fastbind true]</pre> |

終了後の操作

ADドメイン コントローラからクラスタまたはSVMへのアクセスを設定していない場合は、アカウントがSVMにアクセスする前に設定しておく必要があります。

[Active Directoryドメイン コントローラ アクセスの設定](#)

関連情報

- ["security login create"](#)

## LDAPまたはNIS ONTAPアカウントアクセスを有効にする

`security login create`コマンドを使用すると、LDAPまたはNISユーザアカウントが管理SVMまたはデータSVMにアクセスできるようになります。SVMへのLDAPまたはNISサーバアクセスを設定していない場合は、アカウントがSVMにアクセスできるようにする前に設定する必要があります。

タスク概要

- グループアカウントはサポートされていません。
- アカウントがSVMにアクセスするためには、LDAPサーバまたはNISサーバからSVMへのアクセスを設定しておく必要があります。

## LDAPサーバまたはNISサーバのアクセスの設定

このタスクは、アカウント アクセスを有効にする前後どちらでも実行できます。

- ログイン アカウントに割り当てるアクセス制御ロールが不明な場合は、`security login modify` コマンドを使用して後でロールを追加できます。

```
`security login modify`の詳細については、link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-modify.html ["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。
```

## 管理者に割り当てられているロールの変更

- ONTAP 9.4以降では、LDAPサーバまたはNISサーバを経由するリモート ユーザに対して多要素認証 (MFA) がサポートされます。
- ONTAP 9.11.1以降では、LDAPサーバでサポートされている場合は"[ONTAP NFS SVMのnsswitch認証にLDAP高速バインドを使用する](#)"を使用できます。
- 既知のLDAPの問題のため、LDAPユーザーアカウント情報のどのフィールドでも ':' (コロン) 文字を使用しないでください (例: `gecos`、`userPassword` など)。そうしないと、そのユーザーの検索操作が失敗します。

### 開始する前に

このタスクを実行するには、クラスタ管理者である必要があります。

### 手順

1. LDAPまたはNISのユーザ アカウントまたはグループ アカウントがSVMにアクセスできるようにします。

```
security login create -vserver SVM_name -user-or-group-name user_name  
-application application -authmethod nsswitch -role role -comment comment -is-  
-ns-switch-group yes|no [-is-ldap-fastbind true]
```

### "ログイン アカウントの作成または変更"

次のコマンドは、事前定義された `'backup'` ロールを持つLDAPまたはNISクラスタ管理者アカウント `'guest2'` が管理SVMengClusterにアクセスできるようにします。

```
cluster1::>security login create -vserver engCluster -user-or-group-name  
guest2 -application ssh -authmethod nsswitch -role backup
```

```
`security login create`の詳細については、link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/security-login-create.html ["ONTAPコマンド リファレンス"]をご覧ください。
```

2. LDAPユーザまたはNISユーザに対してMFAログインを有効にします。

```
security login modify -user-or-group-name rem_usr1 -application ssh
-authentication-method nsswitch -role admin -is-ns-switch-group no -second
-authentication-method publickey
```

認証方法は `publickey` として指定でき、2 番目の認証方法は `nsswitch` として指定できます。

次の例ではMFA認証を有効にしています。

```
cluster-1::*> security login modify -user-or-group-name rem_usr2
-application ssh -authentication-method nsswitch -vserver
cluster-1 -second-authentication-method publickey"
```

#### 終了後の操作

LDAPサーバまたはNISサーバからSVMへのアクセスを設定していない場合は、アカウントがSVMにアクセスする前に設定しておく必要があります。

#### LDAPサーバまたはNISサーバのアクセスの設定

#### 関連情報

- ["セキュリティログイン"](#)

## 著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。